※令和３年度以前入学生用

学校番号	T3016

令和５年度　工業科

教科	工業	科目	課題研究	単位数	４単位	年次	３、４年次
使用教科書							
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

自動車
・自動車を組み立てるだけでなく、部品を材料から製品作りを行い冬頃には発表会にて出展します。
さをり織り
・織物を織るだけでなく、テーマや使用用途に合った糸を選定しながら創意工夫を形にしましょう。
プログラミング
　ゲームを作製するのに必要なアルゴリズムを中心にＣ言語を学びます。

2　学習の到達目標

３つのテーマに共通して創造したモノを形にするためにはどのような手順や工夫が必要なのか、手順を正確に捉える。その上で納得のできる作品を可能な限り作成する。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	制作物の仕組みについて核となる部分に関心がある。	制作物に関する製造方法について、論理的に考え、分析することにより総合的に判断できる。また、その過程や結果および考えかたを的確に表現できる。	工具や材料、手段に関して理解し、基礎的・基本的な知識だけでなく応用を身につけている。	制作物に関する事柄について、基本的な概念・基礎的な知識を理解している。
評価方法	状況の観察 ノート 発言 レポート 作品の程度 自己評価・相互評価など	状況の観察 ノート 発言 レポート 作品の程度 自己評価・相互評価など	状況の観察 ノート 発言 レポート 作品の程度 自己評価・相互評価など	状況の観察 ノート 発言 レポート 作品の程度 自己評価・相互評価など

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
通年	自動車	1.自動車の基礎、基本、応用 2.製図用具 3.工具の使用方法 4.材料のあらまし 5.作品づくり	○	○	○	○	a:自動車に関する取り決め、規格の決定などを知り、それらを用いた表現方法、使用目的について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。 b:自動車に関する取り決め、規格の決定など適切な使用方法、表現方法を用いることができる。 c:自動車に関する設計図の記号や記述方法などを規格に応じた使用方法について理解できる。 d:自動車に関する取り決め、規格の決定など用途に応じて利用し、それらについて理解している。	自動車の学習目標をよく理解し、課題に意欲的に取り組み、よい成果を身につけたかを評価する。学習過程で、実習内容で適時・適切に４観点による観点別評価を行う。また、毎時間の実習内容や課題についてプリントを提出させ、その内容と考察等について５段階を評価する。

※令和３年度以前入学生用

通年	さをり織り	1.さをり織りの歴史と知識 2.さをり織りの織り作業	○	○	○	○	a:さをり織りにおける材料とその用途に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。 b:材料に関する取り決め、性質、使用用途など適切に使用できる。 c:織り方法だけでなく、糸の作り方、原産などを理解し地方の特色を捉える観点で材料についての知識を身につける。 d:さをり織りに関する材料の取り決め、規格の決定など用途に応じて正しく材料の性質について理解している。	さをりの分野について学習目標をよく理解し、課題に意欲的に取り組み、よい成果を身につけたかを評価する。学習過程で、質問・小テスト等で適時・適切に4観点による観点別評価を行う。また、毎時間の実習内容や課題についてプリントを提出させ、考査を行い、その内容と考察等について 5段階を評価する。

※令和３年度以前入学生用

通年	プログラミング	1. プログラミングのアプリケーションソフトの使い方 2. アルゴリズムの考え方 3. ゲーム作成	○	○	○	○	a:パソコンの操作方法からアプリケーションソフトの使い方を身に付け、用途に応じた使用方法を正しく利用しようとしている。 b:用途に応じた考え方（アルゴリズム）をベン図やフローチャートを用いて論理的にかつ端的にプログラミングできる。 c:C言語における文法とレギュレーションを踏まえた上でプログラミングすることができる。 d:正しく動作することだけでなく、用途に合った関数や変数を最小単位で作成することができる。	プログラミングの分野について学習目標をよく理解し、課題に意欲的に取り組み、よい成果を身につけたかを評価する。学習過程で、質問・小テスト等で適時・適切に4観点による観点別評価を行う。また、毎時間の実習内容や課題についてプリントを提出させ、考査を行い、その内容と考察等について 5段階を評価する。

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。